

龍源寺報

令和7年（2025年）秋彼岸号

派 心 寺 派
住 職 松 原 信 樹
佛 母 寺 住 職 松 原 覺 樹
正 福 寺 住 職 松 原 行 樹
TEL 03-3451-1853
FAX 03-3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23（郵便番号 108-0073）

Email: info@ryugenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

（メールアドレスが復旧しました。）

秋彼岸会におもう

龍源寺住職 松原信樹

身近な問題と向きあって、そこからいかに人間的な生き方の筋道を立てていったらいいのかをよく考え直す。二千五百年以上も前に誕生し現在も存在する仏教は、きっと、その時代の社会と文化の根本的な問題と格闘することを通じて、形成されてきたのであろう。

人間の存在と神の問題、祖先祭祀の問題など、宗教に携わるものにとつて、熟慮しなければならぬことは数多くある。私たちの問題は、現実の中にあって、その現実の問題の根底を考え直すところから視野が構築されて、時代を導く理念や思想が打ち出される。

今回の納骨堂の建立では、祖先祭祀つまり、先祖を弔うことに関して、非常に考えさせられた。人は亡くなっても、亡くなった方の存在感のような存在がある。存在するということは、一体どういうことか。死者のことを思つての納骨堂建立だったが、逆に、人の存在を思索する日々が続いた。死を忘れることなく、限りある人生の中で、「いのち」の本質を見いだし人生を全うする。同時に時間という概念が物事を限定させていく。時間は、寿命という人間の有限性に気づきを与え、同時に魂の

永遠性を人間に希求させる。このようなことから、納骨堂建立は、今をいかに生きるかという私自身の問題と直結していることに気づかせられた。

哲学者である西田幾多郎は、自己の深い奥底を見つめるとき、私たちが死を通して、「逆対応的」に神に接すると語った。（「場所的論理と宗教的世界観」）しかし、神は絶対者としてこの世界から離れてあるのではなく、むしろそうしたあり方を否定して、この世界の中に宿っているとされた。神はこの世界において、どこにもなく、どこにでもある。すべては、あるがままにあり、それでよいのである。そこにおいて「平常心^{びやうしん}」をもつて生きることが肝要であると説いた。平常心とは、日本語では、普段と変わらない心の状態の意味だが、禅語という禅の言葉では、日常にはたらく心のあり方がそのまま悟りであるという意味である。つまり、神、絶対者、大いなるものと人間の肉体の二元論の是非を、西田が引用した馬祖道一^{ばそどういつ}（七〇九～七八八）という禅僧が説いた「平常心」という概念は、中国の唐の時代にすでに克服していたのに気づかされる。

今、原稿を書いているのは、八月十五日。ちょうどお盆の期間である。龍源寺の水月堂は、自動で対面できるような機械的な納骨堂ではなく、亡き人の存在を感じられるものにしていきたい。

ご寄付

金十万円 湯原武司殿

金五万円 匿名殿

金三万円 匿名殿

金一万円 愛敬久美子殿

ありがとうございました

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。龍源寺の周囲が再開発される中、龍源寺を地域の文化資源の一つとして捉え、先々代から三代続く境内整備に力を注いで参ります。ご支援いただける個人・団体・法人の皆さまに改めてご協力を賜りたくお願い申し上げます。未熟者ですが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

龍源寺住職 松原信樹

秋彼岸会

一、九月二十三日（火曜日・秋分の日）午前十一時

一、法話

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。

龍源寺への交通の便（地下鉄）

● 南北線。白金高輪駅下車。徒歩五分。

2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり。

〈都バス〉

● 田87 渋谷駅—田町駅 魚籃坂^{ぎょらん}下下車

● 都06 渋谷駅—新橋駅 古川橋^{きよがは}下車

● 品97 品川駅—新宿駅西口 魚籃坂下^{ぎょらん}・古川橋下車

● 反96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ（循環）

魚籃坂下^{ぎょらん}・古川橋下車

〈東急バス〉

● 東98 東京駅南口—等々力操車場 魚籃坂下^{ぎょらん}下車



龍源寺歴代住職の墓地と
寺族の墓地を
水月堂の隣に移設しました。

龍源寺歴代住職の墓地

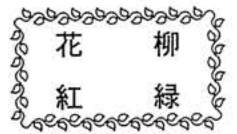


水月堂の隣に
合祀墓を作りました。
(寄贈 豊前屋庭石店)

水月堂合同船（合祀墓）



Instagram を始めました。アカウントは ryugenji.zen です。お寺の行事や工事の状況などを配信していきます。



秋彼岸会を迎えます。皆さまいかがお過ごしでしょうか。納骨堂の水月堂は、現在最後の建築検査を待っている状態です。検査が非常に混んでいるようです。お待たせして申し訳ございません。八月十三日に歴代住職のお墓と寺族のお墓を龍源寺に移設致しました。偶然にもお盆の時期にこのようなことができて、大変嬉しく思っております。関係者に深く御礼を申し上げます。▼地盤沈下により、エレベーターの乗り場に段差ができてしまいました。足元に気をつけてエレベーターの乗り降りをお願い申し上げます。かなり地盤が軟らかいことが今回の納骨堂の工事で発覚しました。▼七月末に北軽井沢の日月庵坐禅堂で、三十名近くの年中・年長の園児の皆さんとスタッフ十数人名、四十名近くの研修が行われました。以前、龍源寺で子供会をしていた時を懐かしく思い、今後もあるような機会を作っていきたいと思いました。娘を含め、寺族全員での仕事

となりました。食事は母が中心となって作り、精進料理をみんなで堪能致しました。このようなことができるのも、多くの方々のおかげだと思っております。コロナ禍で、研修が皆無になっても、掃除や布団干しなどをできて良かったと思うし、それを手伝ってくださった方々に大変感謝しております。次の龍源寺の住職になる人は、日月庵坐禅堂を大切にしてください方になっても、りたいと思います。私も今年、五十四歳になり、今後の龍源寺のことを考えることが多くなりました。今回、納骨堂建立に五年近くかかったことなどを考えると、思っているほど、時間がないのではないかとも思うようになります。借地の問題など、龍源寺には、なすべき課題がありますので、ひとつひとつ向きあっていきたいと思っています。▼母は、少し耳が遠くなりましたが、元気にさせていただいています。毎朝、四時に歩道の掃除をしてくれます。また、毎週、茶道の生徒さんに熱心にお茶の作法を教えています。私が、

なかなか茶道に興味がわかないため、将来どうするのか心配になることもあります。家内も娘も少し興味があるようで、時間のあるときに母からお茶の作法を教えてもらっています。家内の亜矢さんは、会社の仕事、龍源寺の仕事、娘のことで、忙しくしています。夏休みは娘のピアノのコンテストやバレエの発表会などで忙しくなりました。子供の成長につれて、なかなか家族の時間が取れなくて、旅行もできなくなっているようなことが、すでに始まります。娘の瑞樹は、今回の日月庵での合宿で、お姉さん役をさせていただきました。朝のお経で、娘が仮名文字で写経した『延命十句観音経』をみんなで読んだり、食事の時によむ「食事五観文」を園児の皆さんに解説しました。▼九月二十三日（火）秋分の日、午前十一時より、秋のお彼岸の法要を行います。寺族一同お待ち申し上げ待て下ります。どうぞご家族で御来山ください。（信樹）